

経営比較分析表（令和3年度決算）

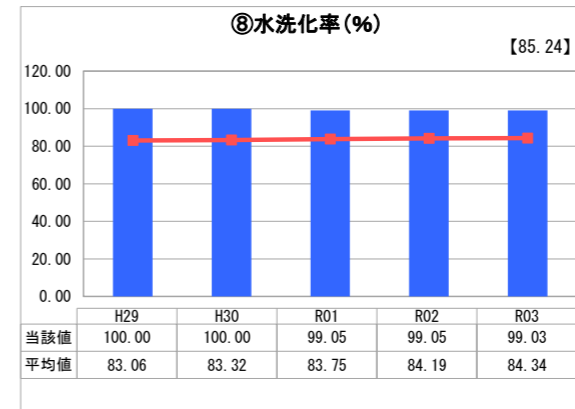
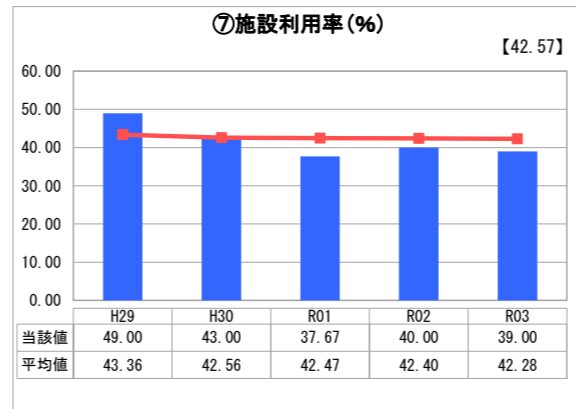
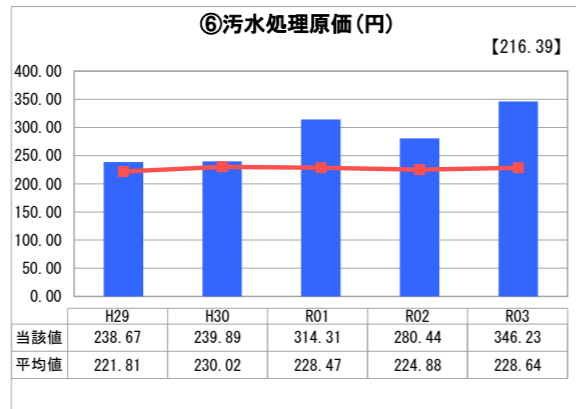
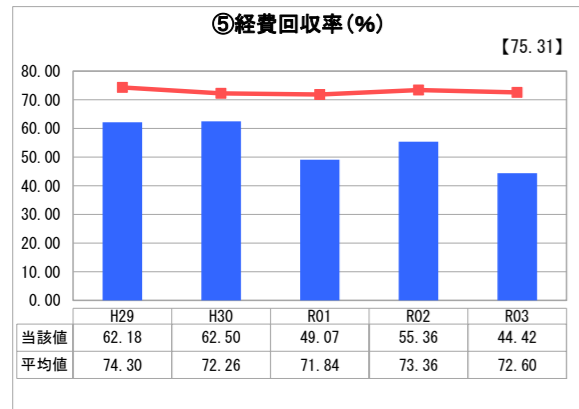
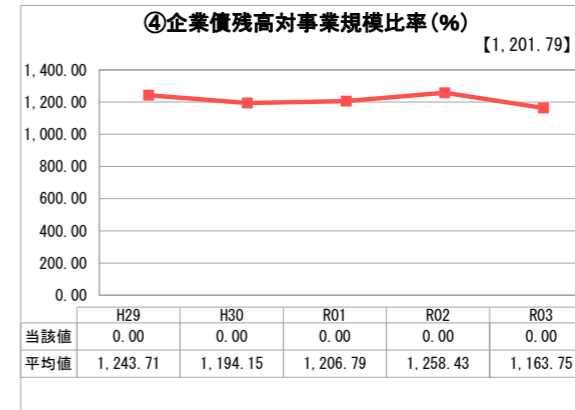
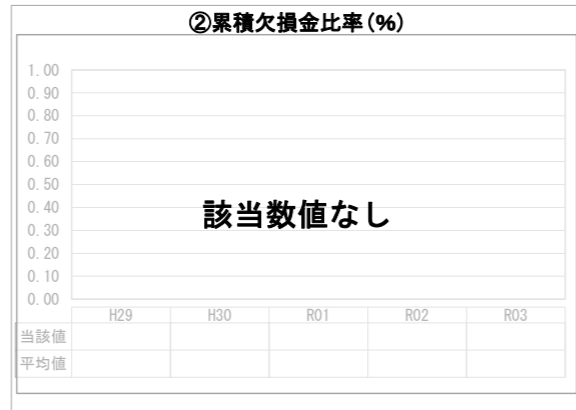
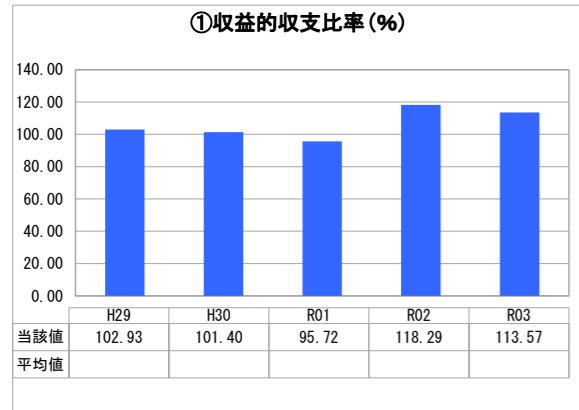
宮崎県 西米良村

| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似団体区分 | 管理者の情報 |
|-----------|-------------|-------------|--------|--------------------------------|
| 法非適用 | 下水道事業 | 特定環境保全公共下水道 | D2 | 非設置 |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 有収率(%) | 1か月20m ³ 当たり家庭料金(円) |
| - | 該当数値なし | 39.00 | 77.07 | 2,500 |

| 人口(人) | 面積(km ²) | 人口密度(人/km ²) |
|------------|--------------------------|-------------------------------|
| 1,086 | 271.51 | 4.00 |
| 処理区域内人口(人) | 処理区域面積(km ²) | 処理区域内人口密度(人/km ²) |
| 413 | 0.23 | 1,795.65 |

| グラフ凡例 | |
|-------|--------------|
| ■ | 当該団体値（当該値） |
| — | 類似団体平均値（平均値） |
| 【 | 令和3年度全国平均 |

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

【①収益的収支比率・⑤経費回収率】

収益的収支比率は100%を超える水準で横ばいに推移しているが、経費回収率は約10pt悪化しており、類似団体と比較しても低水準となっている。現状、一般会計からの繰入額が大きく、使用料単体で運営が賄えていない状況にある。今後、使用料の改定についても議論し、汚水処理費についても見直しを要する。

【⑥汚水処理原価】

類似団体と比べても調達コストが高い状況。使用料改定による料金収入の増加を目指し、併せて維持管理費の削減等により効率的な経営に向けて改善を図る。

【⑦施設利用率】

令和3年度晴天時最大流入量151.7m³(令和3年5月)、晴天時最小流入量79.4m³(令和4年1月)、令和3年度平均流入量117.4m³となっている。平均値より季節要因の特質性はなく稼働率も最大40%程度だが、前処理施設の投入量を換算すると概ね80%程度にて稼働しており、規模は妥当である。引続き施設規模を鑑み管理を継続する。

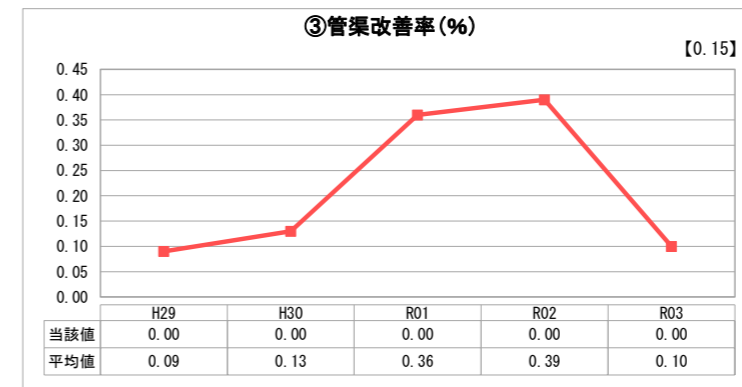
【⑧水洗化率】

ほぼ100%にて推移している。今後も同水準維持に向けて管理を強化する。

2. 老朽化の状況について

当村施設は平成13年に供用開始して以降一定期間経過しており、設備更新について検討段階となっている。とり急いでの更新についてはないが、今後、策定したストックマネジメント計画を活用し、点検・更新を実施していく予定である。

2. 老朽化の状況



全体総括

地方債の償還ピークもひと段落し、収益的収支比率も100%超となっており、経営状況は徐々に改善されつつある。一方で、人口の減少が起因となった有収水量の減少により、一般会計からの繰入金に依存している状況は変わらず、下水道料金単独での運営に課題がある。今後は下水道料金の改定を検討し、運営基盤を強固なものにしていく。また保守面においては、ストックマネジメント計画に基づいた施設の管理により修繕等の費用の削減等を実施する。経営状況を十分注視し、健全性・効率性について追及していきたい。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。